

合併効果で論戦

島原半島南東部の旧南高8町の対等合併により、南島原市が誕生して4年。任期満了に伴う2度目の市長選、市議選の告示が18日に迫った(25日投開票)。市長選には今のところ、現職の松島世佳氏(64)、元市議の平石和則氏(59)、元南高有家町長の藤原米幸氏(63)が立候補を表明。このまま三つどもえの選挙戦に突入しそうだ。1期目には手掛けた行財政改革の成果を強調する現職に対し、「合併効果が出ていない」と現市政に疑問を呈する新人2人。継続か刷新か。3陣営は告示を前に、静かな戦いを繰り広げている。

(南島原支局・副島宏城)

10 南島原市長選

告示直前情勢

市長選が本格的に動き出したのは2月下旬。同市有家町出身の中村法道氏が立候補していた知事選の終了を待って、投票翌日の2月22日にまず平石氏が立候補を表明。松島氏も翌23日に定例市議会で表明し、最後に藤原氏が3月3日に会見を開いた。投票日まで約2カ月の短期決戦。各陣営は急ピッチで選挙態勢づくり

の末吉光徳県議会議員がいさつに立った。市内のスポーツ大会など、市民が集まる場所に小まめに顔を出没す草の根運動を続け支持を訴えている。藤原氏は「市民党」を掲げ、まずは支援組織づくりから始めた。やや出遅れたが、ほぼすべての町に後援会事務所を開設。週末には祭りなどにも出かけ、40

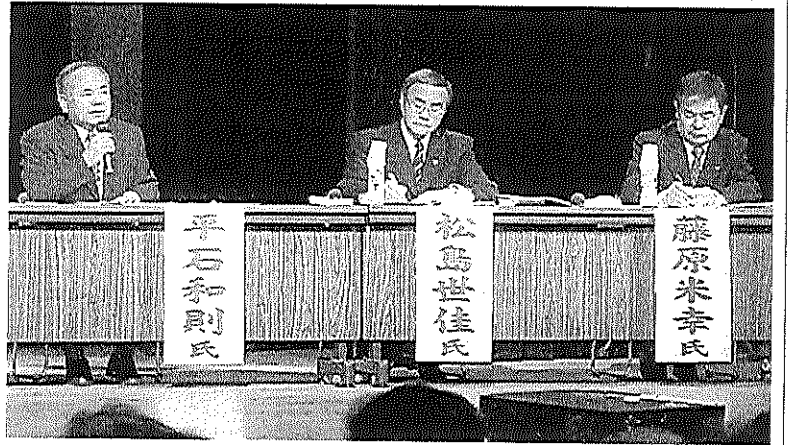
旧有家町から3人

に取り組んだ。

松島氏は、県議時代からの後援会を軸に支持拡大を図っている。八つの町すべてに後援会事務所を開き、それぞれの町で順次、市政報告会などを実施。建設業者や農業生産者団体、自治会など400を超える団体、個人から推薦を得た。

平石氏は、旧8町の町長経験者4人が出馬表明に同席。事務所開きでは、親類らなどと冷やかな声も

市長選の立候補予定者が重要施策などを説明した討論会
＝南島原市、ありえコレジヨホール



立候補予定者が公開討論会

冷ややかな見方の市民も

上がる。「盛り上がりがない」「静か」という声が多く、ある陣営幹部も「反応は鈍い」と認める。

11日に同市有家町のありえコレジヨホールで、地元の若手を中心となって開いたローカルマニフェスト型公開討論会。開場の2時間ほど前から市民が集まり、最終的に約600人がホールを埋めた。若者の姿は少なく、途中で席を立つ参加者も少なくなかった。

今回の市長選で3氏は「福祉施策の充実と交通網の整備」(松島氏)、「福祉タクシー券の発行と市長報酬の30%削減」(平石氏)、「緊急経済対策の実施と市役所の改革」(藤原氏)を柱とするローカルマニフェストをそれぞれ掲げ、市民に選択を求めている。地縁や血縁の枠組みが幅を利かせてきたとされる旧来の投票行動から有権者が脱皮できるか、も大きな注目点になりそうだ。

ローカルマニフェスト型で

南島原 現状認識、ビジョンを説明

任期満了に伴う南島原市長選(18日告示、25日投票)の告示を前に、同市で初めてのローカルマニフェスト型公開討論会「南島原市の未来を語る」(同市ローカルマニフェスト実行委主催)が11日、同市有家町のありえコレジヨホールで開かれた。立候補予定の3人が約600人の市民に、市の現状認識や自らのビジョンなどを説明した。

討論会には、立候補を表明している現職の松島世佳氏(64)、元市議の平石和則氏(59)、元南高有家町長の藤原米幸氏(63)の3人がパネリストとして登壇。ローカルマニフェスト推進ネットワーク九州の北村貴寿氏がコーディネーターを務めた。

3人は、すぐに行う重要施策や行財政改革、経済活性化などテーマ別に具体策を説明。すぐに行う重要施策として、松島氏は福祉券交付など福祉施策の充実、平石氏は福祉タクシー券の

発行、藤原氏は積極的な緊急経済対策の実施などを挙げた。パネリスト同士が政策について質問をぶつけ合う自由討論などもあり、市民は3人が事前に作成したマニフェストに目を通しながら熱心に耳を傾けていた。(副島宏城)